子どもがいるから教育がある
新入、米寿、喜寿の会員紹介も
市退職校長会・総会、研修会

市退職校長会（髙田國行会長）の本年度定例総会と研修会が19日、郷ノ浦町、ホテル太安閣で、約50人が出席して開かれた。

当日は、記念撮影に続いて開会行事があり、新入会員・品川哲範、松嶋幸弘両氏の紹介、今年88歳・米寿の品川芳勝、浦川義臣、平田俊男の3氏と77歳・喜寿の植村昭雄、山内英敏、山西實の3氏の紹介と祝いの品の贈呈など行われた。

総会では会務・会計・監査報告、事業計画、予算の承認などあり、講師に前諫早図書館長・平田徳男氏を招いた研修が「教育の現状と課題」と題して行われた＝写真＝。

平田氏は「子どもがいるから学校があり、教育委員会がある。子どもがいるから教育がある。どこかおろそかになっていないか考えたい。『欲しい』と言わなくても、すでに用意され与えられていたり、本気で自分に気を使わなくてもよい最近の環境は、人を小さく固めてしまっている。少子化にもつながっているので

天ケ原でボランツーリズム28日、チーム防人

全国の小学生以上を対象に28日午後1時半から2時間程度、勝本町、天ケ原海岸一帯の漂着ゴミなどのクリーンアップ作戦「ボランツーリズムin壱岐」が実施される。清掃後に散策も予定されている。参加に関してなど詳しくは「チーム防人」事務局・中山さん（電話0920－47－1798）へ。

社説　iki shinpou

「美しい」島づくり

島の春を淡い色合いで彩るサクラの花から、初夏へと向かう島の季節を映すようにフジの花が咲き始め、山では緑が萌え始めた昔ながらの照葉樹林、野ではスミレ、ナノハナ、名も知れない小さな花が力いっぱい競うかのように鮮やかに咲いている。風物詩でもある春の市が週末ごとに開かれ、石田市（29日）、郷ノ浦八日市（5月13日）を残すばかりとなった。

今年は春先から例年にないような天候が続いていたが、気づいてみると季節は何もなかったように、そのサイクルを刻んでいるよう。郷ノ浦町、半城湾奥の畑を利用して季節の花を咲かせ、往来の市民らの心をホッと一息、和ませているスペースでもチューリップが見事に咲き、島の彩がまだ薄い頃から、あちこちに植えられた草木などとあたりの風情のアクセントとなっている。季節をより一層引き立てているようで、何とも素晴らしい。

最近は、道路脇のわずかなスペースやフラワーポットを利用するなどして、カラフルな花が植えられているのを、以前にもまして見かけるように思う。以前からの「花いっぱい運動」の機運が高まってきているのだろうか。そうしたスペースに植えられた花は、ドライバーや市民らの目を楽しませ心を和ませるだけでなく、その明るい美しさが、島の多様な環境の美化に大いに役だち、島のイメージアップにもつながっている。

今年もゴールデンウィークを目前に春の観光シーズンがスタートした。関西、近畿方面を中心に小、中、高校の修学旅行客として、今のところ33校、4,167人の来島が予定されている。マリンレジャーなど壱岐の雄大な自然の体験や日本の国づくりに非常に重要な位置を占めるという歴史など、島の旅を満喫するメニューが組まれているのではないかと思う。第1陣は来月10日に来島する京都市立大枝中学校。

何年か前に来島した修学旅行生から、空き缶があちこちに落ちていて残念な思いをしたという感想が聞かれ、市民の一人として、非常に申し訳なく思った―の話を聞いたことがある。環境美化への取り組みは、空き缶やたばこの吸い殻などゴミのポイ捨て防止から海洋の環境保全などにも、心理面からも役立っているとされ、今以上に進めたいもの。子どもたちはもちろん、せっかくの旅をより楽しいものにしてもらうためにも、島にとって豊かな自然とクリーンな環境のイメージは欠く事の出来ない要素。

美しい島は、誰よりも島民のものである。その美しさに、これまで以上に焦点を合わせた島づくりが、活性化策だけでなく、心―人づくりにも望まれている。

俳句　島を詠む　4月①

花守の編集人や髭面で　目良奈々月

俳句作りで大切なことの一つは、数多くの季語の中からどれを選ぶかです。髭面の男性と花守を組み合わせてみました。電子辞書は勿論便利ですが、できれば小型の歳時記との併用をおすすめします。

慶弔

（2日～15日　届け出分）

○おたんじょう

【郷ノ浦町】

▽土谷宗治＝しゅうじ＝ちゃん（敬治、永田触）▽大久保喜雄＝きお＝ちゃん（竜幸、本村触）▽深見翔＝しょう＝ちゃん（良太、東触）▽久間瑛心＝えいしん＝ちゃん（尚平、本村触）▽西永葵生＝あおい＝ちゃん（真一、片原触）▽野元天晴＝たかはる＝（洋二、志原南触）

【芦辺町】

▽竹下貴太＝かんた＝ちゃん（真司、住吉後触）▽川久保颯祐＝そうすけ＝ちゃん（貴司、住吉東触）▽篠崎光希＝こうき＝ちゃん（昭宏、住吉後触）

○石田町

▽松永桜青＝おうせい＝ちゃん（健一、石田西触）▽豊増春陽＝はるひ＝ちゃん（崇、池田東触）▽江口輝偉津＝らいじん＝（恵治、筒木仲触）

●おくやみ

【郷ノ浦町】

▽村瀬明さん（83）田中触▽岳野ミスミさん（79）長峰本村触▽小濱福満さん（77）渡良南触▽目良勝利さん（93）本村触

【勝本町】

▽松本美子さん（93）立石南触▽松本良子さん（92）坂本触▽植村廣美さん（89）大久保触

【芦辺町】

▽濱口守さん（60）瀬戸浦▽田口令代（80）深江本村触▽吉井輝夫さん（90）芦辺町住吉東触

【石田町】

▽植村由香さん（28）湯岳興触▽山川幸さん（88）石田西触▽江田不二夫（96）印通寺浦

◎寄付

▽郷ノ浦町本村触、松本麻衣子さんは福祉事業に役立てて市社協郷ノ浦事業所と大里公民館へ

◎忌明寄付

▽石田町山崎触、植田栄穂（亡父榮滋）・市社協石田事業所、山崎公民館へ▽石田町湯岳興触、植村光司（亡妻由香）・市社協石田事業所、昭和町公民館、湯岳興触公民館へ▽勝本町仲触、中田広和（亡母久代）・市社協勝本事業所、仲触公民館へ▽勝本町坂本触、筈崎健治（亡母えつ子）・市社協勝本事業所、川尻公民館へ

◎工事入札

▽八幡浦地区特定漁港整備（2工区）＝111、163、500円・（株）川上組▽中央処理区（片原北部）汚水管布設＝7、455、000円・（有）平成建設

◎雑巾贈

芦辺町、諸吉・大石老人クラブは、田河小学校へ雑巾70枚を送り喜ばれた。

□訂正

▽20日号1面、市長選の記事中、市農協の全組合長の吉野誠治氏とあるのは、前組合長の吉野誠治氏の誤りでした。お詫びして訂正します。

▽同2面・珠算検定試験段位合格者の記事で、暗算の長岡望咲くとあるのは、長岡望咲の誤りでした。お詫びして訂正します。

▽同3面、壱岐国牛まつりの記事で、神楽が回れるは、舞われるの誤りでした。

G・W期間中の一支国博物館イベント（28日～5月6日まで）

①【特別企画展】国特別史跡　弥生集落三大遺跡展

○弥生時代の国特別史跡▽登呂（静岡）▽吉野ケ里（佐賀）▽原の辻（壱岐）の3遺跡を象徴する出土品を一堂に公開、特性をわかりやすく解説。▽会期・20日～6月24日▽場所・1階テーマ展示室▽観覧料・一般大人200円、高校生以下無料

②【梅屋トク像設置記念特別開催】梅屋トク展

○辛亥革命の指導者だった孫文を、盟約に従い渉外支援し続けた梅屋庄吉の妻トクは壱岐・勝本町出身。梅屋夫妻の功績に対し、中国政府から壱岐市に寄贈された梅屋トク胸像の設置（1階エントランスホール）記念として開催。▽会期・6日まで▽場所・1階テーマ展示室▽無料

③【オープン収蔵展示】人の一生展

○人が生まれ亡くなるまでのさまざまな場面を、県内各地からの出土品で表現し分類展示。併せて県埋蔵文化財センターが発掘した県内遺跡の「発掘速報展」も開催。▽会期・5月末まで▽1階オープン収蔵庫▽無料

④【体験プログラム】バーチャル体験航海

○木造古代船に乗船して櫂をこぎ、映像、音響、照明で演出された嵐や夕焼けなどのシーンを背景に、実際に公開しているような体験ができる。▽日時・28日～5月6日の午後零時15分と4時15分からの2回▽場所・1階常設展示室の木造古代船▽対象・未就学児、小中学生（各回先着15人）▽参加無料（別途、常設展示室観覧料が必要）

⑤【体験プログラム】ミュージアムトーク

○博物館学芸員が展示品など分かりやすく解説。▽日時・5月5日午前10時45分と午後3時半からの2回（各約1時間）▽対象・小学生～一般▽参加無料（別途、常設展示室観覧料が必要）

⑥【季節イベント】人形劇「ヘンゼルとグレーテル」

○「こどもの日」は、人形劇で楽しく過ごそう。▽日時・5月5日午後2時～▽3階多目的ホール▽出演・人形劇団「カパRUあ」（福岡市）▽無料

⑦【季節イベント】いきはくフリマ

○原の辻遺跡が見渡せる芝生広場で、フリーマーケットに参加しませんか？▽日時・5月5日午前10時～午後4時まで▽場所・屋上展望広場（雨天の際は3階体験交流室）

⑧壱岐商業高校吹奏楽部・定期演奏会

○若さ溢れる演奏曲目とサプライズの演出に期待！▽日時・5月6日午後1時半開演▽3階多目的ホール▽無料

＊28日～5月6日のゴールデンウイーク期間中は毎日会館。開館時間は午前8時45分から午後5時半（最終入館・午後5時）。問い合わせなど詳しくは一支国博物館（電話0920－45－2731）へ。

第35回県下消防職員意見発表会
壱岐市消防本部代表

「消防士としてできること」

消防士　平田　頌尚

平成二三年三月一一日、私たちの予想をはるかに超えた東日本大震災が発生しました。多くのものを失うと同時に今後の我々の課題も多く見つかったものと思います。私はその中でも消防職員と消防団員の関係について考えるものがありました。

今回のような大規模災害に直面すると、私たち常備消防だけで全ての人を救う事は当然できません。そのようなとき、消防団といかに協力して活動することができるかで消防力は大きく異なってくると私は考えています。

東日本大震災では、地震直後の大津波警報発令からただちに住民への広報と避難誘導をするなど、消防団の活躍により、多くの命が助かりました。また、ある地域では最後の最後まで避難誘導に尽くし、多くの住民を避難させたが、自らは津波にのまれてしまうこともあったようです。危険に向かいながら住民の安全を確保しようとするこの姿にみなさんはどう感じますか？これからも消防団は住民のために活躍することと私は確信しています。

現在、壱岐市の消防活動でも火災になれば常備消防だけでなく多くの消防団員が火災現場へ向かいます。行方不明者捜索の依頼があれば仕事を休んでいても捜索活動を行なっています。多くの方が壱岐市のために消防団として活動なさっているのです。しかしながら問題点もあったようです。私が消防団の方とお話をする機会があったときその方はおっしゃいました。「今の消防団は年配の一部の人間しか消火活動の仕方もわからない。」と。私はその話を聞いてあっと思いました。私たち常備消防は職務中に訓練を行えますが、消防団の方々はそれぞれの職を持ち、遅くまで仕事に終われる毎日です。それ故に訓練をするにしても限られた時間しかなかったのです。もし、若い消防団員も消火活動に参加することができたらもっと活動の効率も上がるのではないか、と私は考えました。

そのなかで昨年、壱岐市では初めての取り組みを行ったのです。休日を利用しての新入消防団員研修課程です。壱岐消防署で新入消防団員に対して、座学、訓練礼式、放水訓練等を指導することで、消防団員の消防の知識と技術を高める活動をしました。こういった活動をする事で消防団員個人の能力を高め、全体の消防力を向上させるとともに、各消防団員が、家族、友人、地域住民に防災の重要性を伝える事によって、地域全体が防災に関心を持つことが出来るのではないでしょうか。私はこの取り組みはとても重要なものであったと思います。これからもこのような活動に積極的に参加し、消防全体の能力を高め、壱岐市民が防災に興味を持ってもらえるよう頑張ります。そして、消防の任務である市民の生命、財産を守っていきたいです。